

(5) 学校事務部会

会 長 芝 恵 (中村南小学校)
副会長 澤田 咲貴 (中村南小学校)
事務局 澤田 咲貴 (中村南小学校)

1. 研究主題「だれもが安心安全な職場をめざして」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和6年 5月7日(火)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出・研究主題決定・年間計画	中村中学校	21名参加
令和6年 8月19日(月)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：校務DXと不祥事防止について (中央区教頭会と合同開催)	四万十市防災 センター	18名参加

3. 今年度の取組

○校務DXと不祥事防止について提案発表

校務DXについて

- ・教師が生徒と向き合うための時間を確保するためには、校務全般をデジタル化によって効率化し、負担を軽減していくことが必要。
- ・教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするためには校務系・学習系システムをパブリッククラウドに移行することが必要。

不祥事防止について

事案をもとに四万十市立準公金取扱要領や校内での決裁のポイントを確認。

不祥事を無くすには、事務職員の育成・研修に加え不祥事できないシステムづくりが必要。

現金を取り扱わない手立てや取組(学校徴収金の口座振替登録100%、教材費等の口座振込での支払等)を共有し、課題とする学校の現金取り扱いの状況について確認を行った。

○グループ演習

1. ICT活用推進(Googleドライブ、フォーム、カレンダー、Chatの活用)について

各校の活用例やメリット

Googleドライブ

(資料活用も進みペーパーレスにもつながっている。場所を選ばない)

- ・職員会や校内研資料を共有ドライブに保存
- ・教育計画、研究集録

フォーム

(作成者も回答者も簡単に作成回答できる。集計も楽で業務削減につながる)

- ・学校評価アンケート
- ・スクールバスの利用調査
- ・市P連研修の保護者アンケート

- ・防災アンケート 他

Google カレンダー

- ・いつ、どこからでも学校行事が入力、確認できる。
- ・アプリを活用することで、スマホでの閲覧入力もできて便利

Chat

- ・教職員間での連絡ツールとして活用
(身体測定、校内物品の探し物の確認等)
- ・tetoru で職員への連絡はできるが送信者からの一方通行になるので、複数の連絡網を準備することで使い分けできている学校もある。
- ・LINE を職員間の連絡に活用するのは好ましくない。

tetoru

- ・欠席連絡を、出欠確認だけでなく学級や部活動での連絡ツールとしても活用できる。
- ・tetoru のアカウントを教職員にも作成しているが、教職員が使っているタブレットにアカウントを入れていない職員も多い。それぞれで欠席連絡の確認や連絡配信ができる形が望ましい。
- ・tetoru の予約配信が便利。前もって連絡内容を作成できる。また誤配信を防げる。
- ・チラシ等の配布物について既読がつかない家庭もあるが積極的に活用していきたい。

2. グループウェアの活用推進 (内部起案の推進) 他

- ・メッセージや掲示板で連絡を行うことで職朝の廃止や職員会の短縮に繋がっている。
- ・文書收受機能により、文書の受理・起案決裁・提出・保管を行うことができ、昨年度のデータ検索やペーパーレス化が進んでいる。
- ・内部起案を行っていればデータが確実に残り、異動等で担当者が変わった際もすぐにデータの活用が行える。
- ・紙媒体が減るだけでなく、受付処理やファイリングの事務作業が減り業務削減につながる。

3. お金に関係した事務処理上のミスや、不祥事が起きないようにするには

不正が発生しない、できないシステムに変えていく。

- ・現金を触らなくていい方法 (口座振替、口座振込等)
- ・販売店で購入できるものは、業者との仲介をせず直接家庭で購入してもらいたい。
- ・学校預り金の口座登録を進める
→引き落とし不能の場合、現金集金でなく口座振込にしてもらう学校が増えている
- ・私会計の廃止
- ・教職員から現金集金を行う場合は集金日を指定する。または振込の方法もある。
- ・教職員も校内での集金を減らしていく努力が必要。

○参加者からの意見・感想

- ・市内の学校の現状を知ること、自校での今後の取り組みの参考となった。
- ・グループウェアを活用し、内部起案も職員全体に広げていきたい。
- ・Chat の活用例を聞いて、便利かつハラスメントの面でも LINE での個人のやりとりに繋がらず、取り組んでいきたいと思った。
- ・少しずつ ICT 活用が校内で進んでいるため、Google カレンダーの活用をしてみたいと思った。
- ・Google カレンダーや Chat のメリットが理解できたので、本校でも取り入れたいと感じた。
- ・校務の ICT 化については、全ての学校が同じように進めていくことが大事だと思うので、今回の会

で共通確認できたことは良かった。

- ・各校で校務 DX の推進に差があるように感じたので、せめて四万十市内だけでも足並みをそろえて、どこに異動になってもギャップを感じることはないように環境を整えていきたい。
- ・現金の取り扱いを削減するためには事務処理の見直しも必要だが、それに加えて業者や保護者の協力も必要だと感じた。
- ・現金をできるだけ触らない・保管しないシステムづくりについて、振込手数料を払ってでも振込にするであったり、PTA 会費を職員に直接振り込んでもらったり、集金期間をできるだけ短くするなどとても参考になった。変更できるところから取り組んでいきたい。
- ・常に風通しの良い職場づくりを目指したい。
- ・学校の中で些細なことも声に出して話すことのできる人間関係を大切にしていくことが不祥事防止につながる危機管理だと思う。
- ・教頭と事務職員が校務 DX と不祥事防止について一緒に研修をすることができ、とても有意義な研修会となった。

4. 今年度の成果と課題

校務 DX 及び不祥事防止について合同研修を行うことができ、各校の ICT 活用の取組状況や不祥事が起きないためにはどうすればよいかを全体で考え、共有できる良い研修となった。

ICT の活用については、学校現場の多忙感や ICT の不得手もあり活用があまり進んでいないとの意見もあったが、教職員同士で教えあったり、急ぎの文書は事前に紙媒体で決裁し、後で内部起案を行う等活用推進に向け校内での流れを工夫し、進めている学校が多くあった。

何事も慣れていくまでが大変であるが、まずは校務 DX に向けて各校が足並みをそろえ取り組んでいくことが、将来の教職員にとって仕事がしやすい環境づくりに繋がっていくと考える。

不祥事防止においても、教職員一人一人が自分事としてとらえ意識を変えていくことが大事であり、日頃からお互いがコミュニケーションをとって相談しあえる職場環境をつくっていくことの大切さを改めて感じる事ができた。

今後もこのような合同会を継続し協働していくことで、安心安全な職場づくりをめざしていきたい。

